

第1号議案 令和3年度事業報告及び収支決算、監査報告

I. 事業報告

令和3年度は、新型コロナウイルス感染が世界でさらに拡大したものの、ワクチン接種が急速に進んだ。主要国では死亡率の低下や重症患者の減少が続き、行動制限の緩和、経済活動の回復が図られてきているが、変異型の流行もあり未だ収束に至っていない。日本でも、緊急事態宣言などが何度か実施されてきたが、ワクチン接種が進んだことなどから重症化率はかなり低下し、4年3月21日をもって東京都などのまん延防止等重点措置が終了した。

2年度は、世界的に経済活動が大幅に低下したが、3年度は感染の影響が緩和される中で全体として持ち直してきた。日本でも、東京オリンピックが1年遅れで開催されたほか、イベント開催制限の緩和など、経済社会活動は徐々に正常化に向かってきているが、外食、旅行業界などは依然厳しい状況が続き、個人消費は低迷が続いている。

一方、4年2月下旬にロシアのウクライナ侵攻が始まったが、西側諸国を中心に強力な制裁措置が発動され、既に様々な影響が現れている。それ以前から、世界的にエネルギー、農産物などの価格上昇が続いていたが、これを機に一層騰勢が強まり、コストプッシュインフレの圧力が高まっている。国内でも、急速な円安が進んだこともあり、ガソリン、ガス、電気代などエネルギーや輸入農産物などの価格が大幅に上昇している。このため食品企業では、様々なコストが急激に上昇し、製品価格の引上げが進みつつあるが、コスト上昇分の転嫁には至っていない状況である。

国内の冷凍食品の需給については、2年度に大幅に減少した業務用はやや持ち直したもの、外食需要の低迷が続き十分な回復には至っていない。一方、家庭用については、2年度に巣ごもり消費の拡大に伴って大幅に増加したが、3年度は前年ほどの伸びは見られなかったものの堅調に推移し、冷凍食品全体として前年度をやや上回った。

このような中で、当協会では、引き続いたコロナ禍により当初の事業計画を多少変更して、様々な制限下で最大限の事業展開を図るように努めてきた。なお、2年度に予定していた「冷凍食品100周年記念事業」は延期したが、結局3年度もコロナ禍のため実施できなかったものの、創業の地である北海道森町に100周年記念碑を建立した。

＜令和3年の生産・消費動向＞

3年(1~12月)の冷凍食品生産量は、数量159.6万トン(前年比2.9%増)、金額(工場出荷額)が7,371億円(5.2%増)であった。数量、金額とも前年を上回った。また、家庭用は引き続き増加し、数量、金額とも過去最高となり、いずれも業務用を上回った。

国内生産量に冷凍野菜輸入量、調理冷凍食品輸入量を加えた「国内消費量」は290.5万トン(2.3%増)、国民一人当たりでは、23.1kg(0.5kg増)となり、再び23kg台となった。

冷凍食品の生産数量・金額の推移

【数量】

	業務用		家庭用		計	
	数量 (トン)	前年比 (%)	数量 (トン)	前年比 (%)	数量 (トン)	前年比 (%)
平成29年	937,549	102.2	662,497	104.1	1,600,046	102.9
平成30年	899,772	96.0	687,236	103.7	1,587,008	99.2
令和元年	896,107	99.6	692,350	100.7	1,588,457	100.1
2年	779,948	87.0	771,265	111.4	1,551,213	97.7
3年	797,547	102.3	798,667	103.6	1,596,214	102.9

【金額】

	業務用		家庭用		計	
	金額 (百万円)	前年比 (%)	金額 (百万円)	前年比 (%)	金額 (百万円)	前年比 (%)
平成29年	405,556	101.8	311,598	108.0	717,154	104.4
平成30年	397,633	98.0	319,335	102.3	716,968	100.0
令和元年	381,514	95.9	316,437	99.1	697,951	97.3
2年	327,882	85.9	372,612	117.8	702,777	100.7
3年	345,148	105.3	391,918	105.2	737,066	104.9

冷凍食品の国内消費量(令和3年)

国内消費量 (トン)	国内生産量 (トン)	冷凍野菜 輸入量 (トン)	調理冷凍食品 輸入量 (トン)	1人当たり 消費量 (kg)
2,904,746 (前年比102.3%)	1,596,214 (102.9%)	1,072,390 (103.8%)	236,142 (92.6%)	23.1 (0.5kg増)

1. 広報事業

「冷凍食品100周年記念事業」記念式典、講演イベントは3年度に延期したが、コロナ禍により結局中止とし、記念碑除幕式のみ開催した。その他、長引くコロナ禍により一部事業は計画変更を余儀なくされた。

(1) PR活動

ア. 「冷凍食品100周年」記念事業

(ア) 冷凍食品100周年記念イベント

北海道森町との共催で、3年度に延期した「冷凍食品100周年記念事業」を、9月3日に記念式典、講演イベントを計画したが、新型コロナウイルス感染再拡大に伴い、式典等は取り止め、後日、記念碑除幕式のみ開催とし、10月13日(水)に大檜会長、岡嶋町長による除幕を実施。なお、式典参加予定者には式次第、葛原猪平記、冷凍食品100周年記念映像DVDなどを送付。



(イ)「冷食 JAPAN 2021」

10月27日(水)～29日(金)、東京ビッグサイト青海展示棟において、当協会主催で冷凍食品及び冷凍食品製造に特化した専門展示会を開催。会員の協力によるブース展示のほか、専門家によるセミナーを開催。なお、「フードシステムソリューション」、「フードセーフティジャパン」等との同時開催。

期 間: 10月27日(水)～29日(金) 10:00～17:00

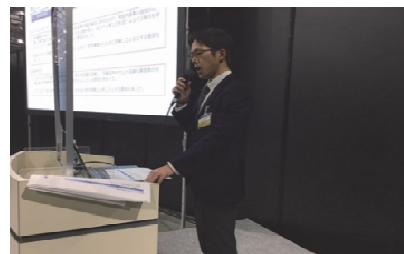
場 所: 東京ビッグサイト 青海展示棟

内 容: 冷凍食品と冷凍食品製造の専門展示、冷凍食品に関するセミナー
10講座を開催。

出展社数: 5社 11小間

来場者数: 32,061名(同時開催展総数)

セミナー聴講者数: 607名



＜セミナースケジュール、来場者数＞

◆10月27日(水)

タイトル	冷凍食品の世界	脱炭素社会実現に向けた冷凍機の冷媒動向と 食品産業分野での取り組み	総菜市場における冷凍食品の使用状況	冷凍食品業界初！国内全工場のフリーザーの 脱フロン化
講演者	(一社)日本冷凍食品協会 三浦 佳子	株式会社前川製作所 千石 智之	(一社)日本冷凍食品協会 横塚 嘉人	味の素冷凍食品株式会社 西村 智
時間	10:45～11:30	12:00～12:45	13:15～14:00	14:30～15:15
聴講者数	93人	51人	75人	45人

◆10月28日(木)

タイトル	SDGsと冷凍食品	学校給食と冷凍食品	冷凍食品包装の環境対応について
講演者	国立大学法人東京海洋大学 渡辺 学	女子栄養大学 金田 雅代	大塚包装工業株式会社 島田 健太
時間	10:45～12:15	13:15～14:00	14:30～15:15
聴講者数	66人	76人	61人

◆10月29日(金)

タイトル	冷蔵・冷凍倉庫におけるIoT活用事例と近未来構想 ～DXがもたらす保全改革と環境価値～	コロナ禍の食卓と栄養実態(冷凍食品の可能性)	食品包装における超音波加熱シールの凄さ
講演者	株式会社日立製作所 中村 健二	株式会社ライフスケープマーケティング 奥村 将仁	株式会社フジキカイ 宮田 敏弘
時間	10:45～11:30	12:00～12:45	13:15～14:00
聴講者数	40人	48人	52人

イ. キャッチコピー・ロゴによる展開と冷凍食品アンバサダーの起用

平成 26 年度から使用していた統一キャッチコピー「ココロにおいしい冷凍食品」とロゴマークを一新し、3 年度より「べんりとおいしいのその先へ 冷凍食品」をベースとして PR 活動を展開。イベントや制作物など、様々な場面で PR するとともに、会員各社への周知及び製品カタログでの掲載などの活用を促進し、業界全体の活性化を図った。

また、平成 29 年度から「冷凍食品アンバサダー」に起用している洋食料理家の三國清三氏に対し、アンバサダーとしての活動を引き続きバックアップした。



ウ. 冷凍食品 PR イベント

(ア)「冷凍食品の日」PR イベント

従来、200 名以上の消費者を集め、PR イベントを開催(2 年度は中止)していたが、3 年度はコロナ禍の中で、募集を 80 名(実際の参加者 64 名)に限定し、着席方式とした。

内 容:「10 月 18 日は『冷凍食品の日』

～べんりとおいしいのその先へ 冷凍食品～」

日 時:令和 3 年 10 月 18 日(月) 12:00～14:10

会 場:ロイヤルパークホテル(東京都中央区)

開会挨拶 / 大櫛会長

【第一部】 トークセッション / ゲスト 山口もえさん(タレント)

三國清三氏(洋食料理家・冷凍食品アンバサダー)

大櫛会長

ゲストのトーク、山口さんが冷凍食品を活用したレシピを実演。



大櫛会長の挨拶



トークショー



ミニクッキングコーナー



報道撮影

【第二部】 試食会

ホテルシェフが考案した冷凍食品活用メニューの試食。

閉会挨拶 / 藤井副会長



小川シェフによる
メニュー説明



会場の様子



藤井副会長による挨拶

(イ)農林水産省「消費者の部屋」展示

①農林水産省(本省)

農林水産省「消費者の部屋」で、「べんりとおいしいのその先へ 冷凍食品」をテーマに16回目となる冷凍食品の展示を開催。5日間の来場者数は384名(前年497名)で、3年度も、前年同様、試食と会場のラジオ中継を取りやめ、パネルなどの展示、DVD放映、カタログなど資料の配布とした。

期 間:10月4日(月)~10月8日(金)

場 所:農林水産省「消費者の部屋」(東京都千代田区)

内 容:・パネル展示

「普及」5枚、「工場見学」5枚、「冷凍食品の歴史」5枚、

「冷凍食品100周年」2枚、「業務用需要先マップ」1枚ほか

・スタンドパネル展示

「冷凍食品の豆知識の木」、「○×クイズ」等

・ダミーパッケージ展示 82品目

- ・普及パンフレット類の配布
- ・会員社製品パンフレット類の配布
- ・当協会制作の消費者向けDVD「追跡！冷凍食品 探れ！おいしさの秘密」「冷凍食品100年記念映像」の上映



②地方農政局

① の「消費者の部屋」の展示は、中国四国農政局(4月12日～5月7日)、北陸農政局(9月)、北海道農政事務所(9月～10月)、関東農政局(10月4日～10月29日)、東北農政局(2月15日～26日)でも開催されたほか、近畿農政局(6月17日～3月31日)ではデジタル展示された。

(ウ)学校給食関係者向け研修会

日本教育新聞社との共催で、本年度で7回目となる、栄養教諭、学校栄養職員、教育委員会学校給食担当者などを対象とした研修会を、オンラインで開催。元文部科学省学校給食調査官による講演、学校栄養職員による実践事例発表、冷凍食品メーカーによる商品紹介、意見交換会を実施。研修会の模様を、日本教育新聞1月10日号に掲載。また、「NIKKYO WEB(日本教育新聞電子版)」に研修会の様子を掲載(後述)。

タイトル:「コロナ禍における学校給食での冷凍食品活用に向けた研修会 ～豊かな献立を実現するために～」

日 時:12月4日(土) 10:00～14:00

場 所:トーケネットホール仙台(宮城県仙台市)

内 容:・元文部科学省学校給食調査官 金田雅代氏による基調講演

「食育推進にはたす冷凍食品の役割」

・利府町立利府小学校兼利府町学校給食センターみんなのお昼キャロット館 栄養教諭 村井佳奈氏による実践事例発表

「冷凍食品を有効に活用した豊かな給食の提供」

・冷凍食品メーカー6社による取組、商品の紹介

・意見交換会

受 講 者:栄養教諭、学校栄養職員、教育委員会学校給食担当者など

オンライン参加者:51名



(エ)在宅介護向けセミナー

女子栄養大学出版部と共に、「欠食しがちな朝も、冷凍食品活用術」と題したオンラインセミナーを開催。訪問管理栄養士で北海道名寄市立大学健康福祉学科准教授の中村育子氏と当協会広報部長の講演のほか、冷凍食品メーカーの市販用商品を紹介。なお、当初、会場参加とオンライン参加の2方式でしたが、コロナ禍のためオンラインに限定した。このセミナーの概要を「栄養と料理」4月号に掲載（後述）。

タイトル:「欠食しがちな朝も、冷凍食品活用術

～シニアや在宅介護にも活かせる～」

日 時:2月4日(金) 18:30~20:30

場 所:大手町サンケイプラザ(東京都千代田区)

内 容:・広報部長による講演

「知ろう！活かそう！冷凍食品」

・北海道名寄市立大学健康福祉学科准教授 中村育子先生による特別講演「時間栄養学に沿って冷凍食品を用いた朝食提案」

・冷凍食品メーカー6社による取組、商品の紹介

・質疑応答

受講者:「栄養と料理」読者(管理栄養士、栄養士など食に携わる方、介護士・ヘルパー等)

オンライン参加:281名

※コロナ禍のため、会場参加(予定者50名)を取り止め、オンラインに限定



(才)子育て世代向けミニセミナー

子育て支援サイト「ベビカム」(会員 11 万人)で定期的に開催しているオンラインお茶会「Mama Tea Break」で、「頑張りすぎない家事&育児」をテーマに、広報部長が生配信でミニセミナーを 2 回実施。セミナーの模様は YouTube のベビカム公式チャンネルから閲覧可能。

タイトル:冷食スペシャル①、②

日 時:①3月 15 日(火)15:00~15:47

②3月 29 日(火)15:00~15:40

ゲスト:①パパ料理研究家 滝村雅春氏

②管理栄養士 まえだともこ氏

内 容:①離乳食、冷凍食品の安全性について、冷凍食品を使った離乳食の取り分けレシピ紹介

②ママのひとりランチ&おやつ、冷凍食品の基本～安全性について
冷凍食品を使ったママのひとりランチ&おやつ、質問タイム

参 加 者:①、②各 135 人

(カ)東京都「交流フェスタ」

毎年、東京都消費者月間である 10 月に開催されている、東京都主催の「交流フェスタ」は、今年度も WEB 上での開催となった。10 月 22 日(金)~1 月 31 日(月)に開設された特設サイト内の「消費生活いろいろブース」コーナーにおいて、当協会から啓発動画の配信やクイズを通じて、冷凍食品の優れた特性を紹介。

ウ. WEB の活用

(ア)ホームページ

当協会の月刊会報誌「冷凍食品情報」をホームページ上に掲載し、バックナンバーを閲覧できるようにした。また、消費者や会員に対して、各種情報を適宜提供した。さらに、「TOPICS 会員・業界関係者向け」ページに、行政から新型コロナウィルス関連など周知要請のあった情報を 95 件掲載した。

(イ)消費者向けサイト「冷食 ONLINE」

新たに「記念日に作りたいアニバーサリー特集」、「野菜不足解消！
冷凍野菜を使ったアレンジ特集」などの特集ページの作成など、コンテンツの充実を図った。



(ウ) Facebook

「冷食 ONLINE」のニュース更新を伝える告知媒体「冷凍食品のススメ」として活用した。

(エ) 読売新聞オンライン(YOL)との連携

10月の「冷凍食品月間」期間中に、読売新聞ホームページから、「冷食 ONLINE」へのリンク誘導を図った。

① YOL トップページ

掲載期間:10月18日(月)

内容:YOL トップページにバナーを掲載し、

「10月18日は冷凍食品の日」の告知と「冷食 ONLINE」へのリンク誘導。

② YOL 内「発言小町」

掲載期間:10月18日(月)~31日(日)

内容:YOL 内の「発言小町」にバナーを掲載し、

「10月18日は冷凍食品の日」の告知と「冷食 ONLINE」へのリンク誘導。

(オ) ニュースサイト記事広告

春先の新生活開始時期に、主に若年層を対象とした総合ニュースメディアである「マイナビニュース」に記事広告を3月1日から掲載(過去2回の漫画形式の続編)。「おもてなしレシピ」として、冷凍食品を用いたレシピ4品を紹介するとともに、「冷食 ONLINE」への誘導を図った。

掲載期間:4年3月1日(火)~(アーカイブで長期間閲覧可能)

内容:前回(3年3月)の続編とし、後輩の結婚を祝う“ある夫婦”的「おもてなしレシピ」を紹介しながら、冷凍食品のおいしさの秘密や時短テクを解説。

※同サイトの「春の新生活特集」コーナー(4年3月~4月)にも同記事を掲載



(カ)外食関係者向けサイト記事広告

主に外食経営者向けに、外食に関わる様々な最新情報を提供するサイトである「フードリンクニュース」に外食事業者が冷凍食品を使用することによる主なメリットについて、協会広報部長、冷凍食品メーカー、居酒屋などへのインタビュー形式で具体的に掲載。

2月28日(月)(初日VP数5,988)、3月8日(火)(同4,008)、3月22日(火)(同6,011)及び3月29日(火)(同1,047)に掲載。



(3月22日掲載分)



(3月29日掲載分)

(キ)動画広告配信

2年度に制作した動画広告「“手間抜き”で子どもはすくすく育つ」編(30秒)を、テレビ番組見逃し配信サービスで配信(322万回)。

配 信 日:4年3月12日(土)~31日(木)

配信先媒体:日本テレビ見逃し配信、フジテレビ見逃し配信

エ. メディア展開

(ア)地方メディアミックス

特定エリアでテレビ、ラジオ、新聞等のメディアを複合的に活用し、相乗的な効果の創出を狙い、3年度は、北海道、宮城県で実施。

<北海道エリア>

i.新聞記事広告

掲 載 紙:北海道新聞(朝刊)

部 数:87万部

掲 載:10月17日(日)

体 裁:5段モノクロ

内 容:冷凍食品の特性の解説、「冷食
ONLINE」の紹介ほか



ii.テレビ

番 組 名:「みんテレ」

放 送 局:北海道文化放送(uhbテレビ)

エ リ ア:北海道

放送日時:9月13日(月)15:50~19:00(放送内10分程度)

内 容:元日本ハムファイターズ森本稀哲氏と当協

会広報部長が出演し、冷凍食品を食べてはいるものの、そのおいしさや進化についてもっと知りたいという森本氏に、試食も交えながら広報部長が解説。



番組名:「いっとこ！」

放送局:北海道文化放送(uhbテレビ)

放送エリア:北海道

放送日時:10月9日(土)10:25~11:50(放送内5分程度)

内 容:SNSによる視聴者キャンペーンで集まった冷凍食品のレシピを紹介。

iii.ラジオ

番組名:①「オトノハにのせて」 ②「Daytime」

放送局:函館エフエム(FMいるか)

放送エリア:函館

放送日時:①7月21日(水)10:15~10:30

②10月13日(水)15:45~15:58

内 容:①「人ネットワーク」に広報部長が出演。冷凍食品の基礎知識と活用のポイントなどを解説。

②森町で当日実施した100周年記念碑除幕式の模様、冷凍食品の歴史と基礎知識を広報部長が生出演で紹介。

番組名:「Be My Radio」

放送局:エフエム北海道(AIR-G')

放送エリア:北海道

放送日時:9月22日(水)、29日(水)両日12:35~12:45

内 容:冷凍食品の歴史、最新の冷凍食品情報やSNSキャンペーンで集まったレシピを紹介。広報部長がリモートで生出演。

iv.WEB

北海道文化放送公式Twitterによる視聴者キャンペーンで集まった冷凍食品のレシピを紹介。

<宮城県エリア>

i.新聞記事広告

掲載紙:河北新報(夕刊)
部数:約4万部
掲載:10月16日(土)
体裁:5段カラー
内容:冷凍食品の魅力や役立つ情報を紹介



ii.テレビ

番組名:「ひるまでウォッchin！」
放送局:東北放送
放送エリア:宮城県
放送日時:10月18日(月)11:10頃(4分程度)
内容:当協会委嘱の調理コンサルタントが冷凍食品のアレンジメニューをお笑いタレントと共に紹介。

iii.ラジオ

番組名:日本冷凍食品協会プレゼンツ「おいしく豊かに！冷凍食品ライフ」(冠番組)
放送局:東北放送
放送エリア:宮城県、福島県、山形県エリア
放送日時:10月16日(土)9:00~9:30
内容:番組パーソナリティと当協会広報部長が冷凍食品を試食しながら、基礎知識やアレンジレシピを紹介。

iv.WEB

東北放送ホームページ内の特設サイトに「冷凍食品の日」「冷凍食品月間」などを掲載するとともに、「冷食 ONLINE」への誘導を行った。

(イ)新聞広告

①一般紙

i.「読売新聞」(約 738 万部)

10月18日(月)朝刊

タイトル:「進化する冷凍食品でこころ豊かな暮らしを」

内容:山口もえさんのインタビューを中心に、冷凍食品のお役立ちポイントやメリット、もえさんが「冷食 ONLINE」から選んだアレンジレシピを紹介。(1P カラー)



ii.「読売新聞」(約 738 万部)、中日新聞(約 197 万部、東海地方)

中国新聞(約 54 万部、広島県)

3月26日(土)朝刊、読売新聞

3月27日(日)朝刊、中日新聞、中国新聞

タイトル:「冷凍食品で叶える軽やかなライフスタイル」

内容:歌手の荻野目洋子さんが、仕事と家庭を両立させるライフスタイルの秘けつと、おススメの冷凍食品“ひとつふう”レシピを紹介。(1P カラー)



iii.「読売 KODOMO 新聞」(19 万部)

10月21日(木)

タイトル:「野菜ソムリエの山口もえさん教えて！ 冷凍食品のこと」

内容:主な読者である小学生及びその親に対して、冷凍食品やその魅力について、また、子供でも作れる簡単おいしい冷凍野菜アレンジレシピを紹介。(1P カラー)



4月7日(木)

タイトル:「ココロはずむ新学期 冷凍食品でレツツクッキング！」

内容:荻野目洋子さんと一緒に料理にチャレンジ。また「知ってる？ 冷凍食品のヒミツ」として 3 つのポイントを解説。(1P カラー)



②教育関連紙

「日本教育新聞」(23 万 5 千部)

4年1月10日号

タイトル:「コロナ禍における学校給食での冷凍食品活用に向けた研修会 冷凍食品の活用で豊かな学校給食を目指して」

内容:12月4日(土)の学校給食関係者向け研修会での金田氏による講演、村井氏の実践事例発表、会員社による製品の説明、会員社と学校給食関係者による意見交換会(前掲)の内容を掲載。(1Pモノクロ)



(ウ)雑誌広告

「栄養と料理」(15万部)

介護現場での冷凍食品の利用促進を図るため、在宅介護向けセミナー(前掲)の採録記事を「栄養と料理」4月号(3月9日発売)に掲載。

タイトル:「欠食しがちな朝も、冷凍食品活用術～シニアや在宅介護にも活かせる～」

内容:2月4日(金)にオンラインで実施した、シニア食や在宅介護向けセミナーの模様や、セミナーで紹介したレシピ、在宅介護において冷凍食品を活用するメリットなどを掲載。



(エ)ラジオ・テレビ広告・パブリシティ

シニア層の聴取率が高いラジオやテレビで、冷凍食品月間の10月を中心にラジオ広告とパブリシティを展開した。なお、テレビ広告は、エ(ア)地方メディアミックスで既述の通り。

また、テレビでの冷凍食品特集などの番組放映に当たって、多くの取材協力を行った。

<ラジオ>

①文化放送(関東エリア)

i. 「くにまるジャパン極」

放送日時:10月15日(金)12:35~12:45

内容:パーソナリティの野村くにまる氏と当協会広報部長が冷凍食品の試食を通して、冷凍食品の魅力を説明。



ii. 日本冷凍食品協会プレゼンツ『林家たい平 笑う門には冷凍食品』(冠番組)

放送日時:10月16日(土)18:00~18:57

内容:落語家の林家たい平氏と当協会広報部長が出演し、冷凍食品の試食、冷凍食品に関する様々な情報提供、たい平氏のアレンジレシピの紹介などを行った。



※放送後に番組のダイジェスト版を YouTube で配信。

公開期間:10月16日(土)~1月15日(土)

②地方ラジオ局ほか

	放送日	放送局	エリア	番組名	放送時間	内容
1	8月29日(日)	全国コミュニティFM	全国	「みんなのサンデー防災」	14:15~14:35	広報部長が冷凍食品の優れた特性、役立つ情報を解説。
2	10月18日(月)	FM KOFU	山梨地区	「てっぺん！」	12:45~13:00	広報部長が冷凍食品の優れた特性、役立つ情報を解説。
3	10月25日(月)	FM しばた	新潟地区	「ひるどきしばた769」	12:30~12:40	同上
4	11月12日(金)	ABC朝日放送	大阪	「横山太一のビカイチ☆ブランチ」	11:40~11:50	同上
5	11月12日(金)	ラジオ大阪	大阪	「Hit & Hit」	14:47~14:58	同上
6	11月23日(火)	RKB毎日放送	福岡	「オナビゲーションZ」	11:47~11:58	同上
7	11月29日(月)	FM えどがわ	江戸川区	「柳橙色の五重奏(クインテット) 作品33」	17:01~17:30	広報部長が冷凍食品の概要、コロナで変化した冷凍食品事情等を解説。
8	12月7日(火)	ラジオ大阪	大阪	「OBOグッドアフタヌーン #らじぐう」	11:45~11:58	広報部長が冷凍食品の優れた特性、役立つ情報を解説。
9	12月21日(火)	FM Jaga	帯広地区	「おはまる」	8:10~8:25	広報部長が冷凍食品の概要、コロナで変化した冷凍食品事情等を解説。
10	1月14日(金)	エフエム山口	山口地区	「ハッピーハッピーフライディ」	16:30~16:40	山口県出身の葛原猪平と冷凍食品の歴史やその特性を解説。
11	1月28日(金)	BAY FM	関東地区	「金つぶ」	19:30~20:20	広報部長が冷凍食品の優れた特性、役立つ情報を解説。

才. 冷凍食品の利用状況実態調査

消費者の冷凍食品利用状況の経年変化を把握するとともに、広報事業の基礎データとして利用。2年度の調査結果を3年4月に公表。また、PRワイヤーを利用し、各メディアに向けて発信。3年度は、従来の設問に加え、食品の値上げ、コロナ禍の影響などを加えた調査を2月に実施し、4年4月に公表。

(2)啓発活動

ア. 冷凍食品ゼミナー・講習会

(ア)学生を対象にした冷凍食品ゼミナー

栄養士や調理師の養成講座を設置している大学、短大、専門学校及び高校に案内を行い、要請のあった学校を対象に講演、DVD 上映、調理デモンストレーション・実習、試食等を内容としたゼミナーを開催したが、3年度は、実施 19 件(うちオンライン 5 件)と、元年度 37 件に比べ大幅に少ないものの、2年度 7 回よりかなり回復。(3年度の参加者は 899 人(前年度 455 人))

(イ)消費者を対象にした講習会

全国の消費生活センター、保健所、消費者グループ等が主催する消費者対象の講習会を、講演、DVD 上映、調理実習を内容として開催したが、3 年度は、実施 9 件と、元年度 13 件に比べ少ないものの、2 年度 3 回より回復。(参加者は 345 人(同 160 人))

(ウ)業務用ユーザーを対象にした講習会

従来から、各地の学校給食会、保健所等の要請により、集団給食に携わる栄養士、調理師等を対象に開催しているが、3 年度は実施できなかった。(同 0 回)

(エ)冷凍食品調理コンサルタント

①調理コンサルタント委嘱

全国の料理研究家等を冷凍食品調理コンサルタント(12 名)として委嘱した。協会職員と協力して、各地でゼミナール・調理講習会を実施し、主に実習を担当しているが、3 年度は 10 回、元年度 27 件に比べ少ないものの、2 年度 2 回より回復。

②調理コンサルタント研修会

毎年実施しているスキルアップのための研修会は中止とした。

イ. 消費者団体との意見交換会

平成 21 年以降、消費者団体と定期的に意見交換会を実施しており、4 年 2 月に第 13 回目を開催した。冷凍食品をめぐる動向、当協会の事業活動等を説明するとともに、コーデックス、SDGs、プラスチック容器包装の削減、SNS 等を使った広報活動等、多岐に渡って意見交換を行った。

実施日:4 年 2 月 28 日(月)15:00~16:30

場 所:オンライン

出席者:7 団体 11 名

<参加消費者団体>

主婦連合会、(一社)全国消費者団体連絡会、
(公社)全国消費生活相談員協会、東京消費者団体連絡センター、
(一社)消費者市民社会をつくる会、(一財)日本消費者協会、
(一社)フードコミュニケーションコンパス

<当協会>

木村専務理事、尾辻常務理事、三浦広報部長

ウ. 工場見学の推進

消費者等が冷凍食品工場の見学を通して、生産現場での品質・衛生・安全管理や製造工程の理解を深めることで冷凍食品ファンを拡大するため、引き続き、その受け入れが可能である会員企業の冷凍食品工場を当協会ホームページで紹介したが、多くの工場では見学を制限中。

エ. 普及広報資材

講習会、ゼミナール、イベント、各社のお客様相談室等で使用する各種パンフレット、冊子類、DVDについて、その内容を適宜見直し活用した。

	(配布数)
・リーフレット「冷凍食品だからOK！」	22,900 部
・　　〃　　「冷凍食品認定制度(学校給食に携わる皆さまへ)」	4,300 部
・冊　　子「冷凍食品Q&A」	15,300 部
・　　〃　　「冷凍食品ひとつふうレシピ」	17,500 部
・　　〃　　「冷凍食品取扱いマニュアル」	4,400 部
・DVD「追跡！冷凍食品探れ！おいしさの秘密」(消費者向け)	8 枚
・DVD「おいしさそのまま冷凍食品」(業務用関係者向け)	5 枚
・DVD「学校給食充実のために冷凍食品ができること」(学校給食関係者向け)	0 枚
消費者向け PR 映像を新たに制作していたが、コロナ禍で完成が遅れ、4年4月に完成。	

(3)その他

ア. ブロック協議会との連携

各地で冷凍食品の普及・消費拡大事業を展開している各ブロック協議会(首都圏、北陸)に対し、普及広報資材の提供、助成などの支援を行った。

イ. 流通事業者との連携

販促活動に活用してもらうため、新たな業界統一キヤッチコピー及びロゴを流通会員事業者に提供したほか、パンフレット、冊子などを要望に応じ提供。

2. 品質・技術事業

(1)「冷凍食品認定制度」の運用

令和2年11月に改定した令和3年度版冷凍食品認定制度(以下、認定制度)を、令和3年4月より施行した。コロナ禍への対応としては、昨年度と同様に、認定有効期間の暫定延長やリモートを活用し円滑な運用に努めた。また、平成30年6月に改正された食品衛生法のうち、3年6月施行のHACCP制度化に対応した施策を実施した。引き続き(一財)日本食品検査(以下、JFIC)に工場調査、指導業務を委託した。

ア. 更新及び新規調査・審査

3年度は、更新調査対象149工場の調査のほか、6工場の新規調査を行った。なお、コロナ禍への対応として有効期間内に審査を完了できない14工場に対して、有効期間を2ヶ月延長した。

これらの工場の調査報告を基に、冷凍食品製造工場認定委員会を15回開催して認定審査を実施。更新審査の結果、4年工場140、3年工場5、2年工場4として認定。これらのうち、4工場が3年から4年へ、1工場が2年工場から3年工場へレベルアップしている。一方で、4年工場から3年工場へ、3年工場から2年工場へ、各1工場ランクダウンしている。新規認定の6工場については、4年工場が5、2年工場1として認定された。

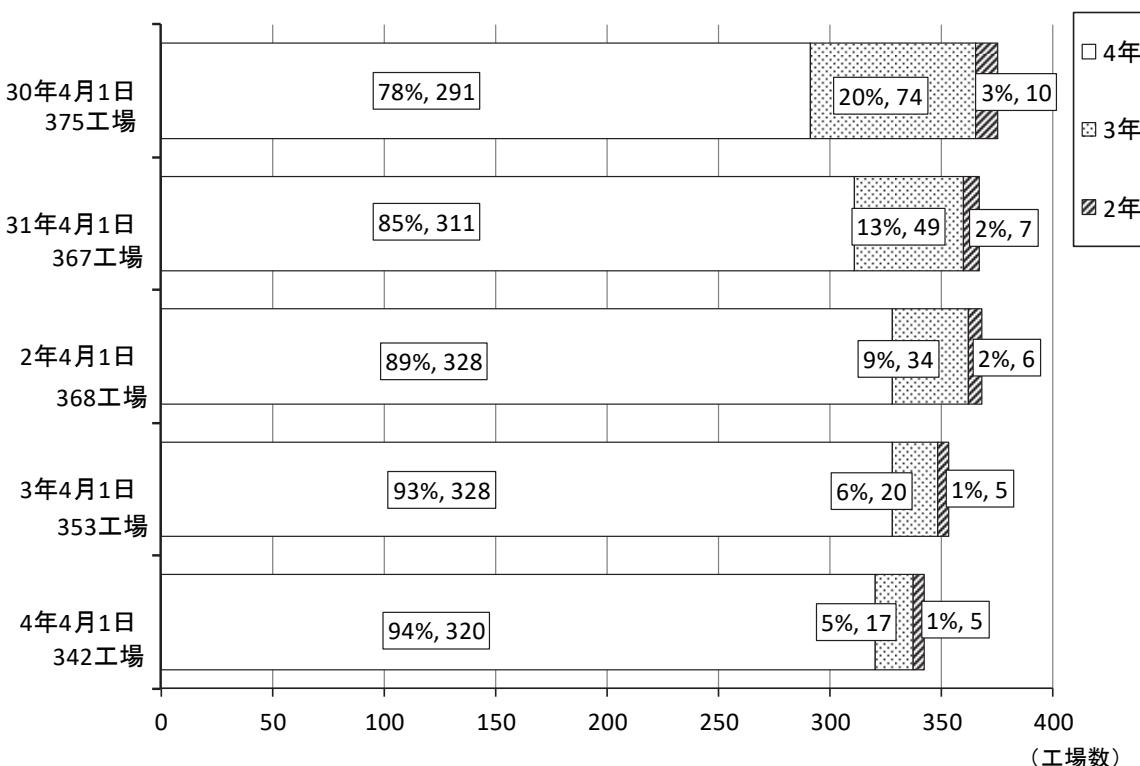
審査は、調査時の評価点だけでなく、製品の温度管理、微生物検査体制等を確認し、必要に応じ、関係資料の追加提出等により当該工場の状況を詳細に把握して審査を行った。

4年4月1日時点の認定工場は、342工場、うち4年工場320、3年工場17、2年工場5。

<3年度 認定工場数の内訳>

内 容	認定有効期間別工場数			計
	4年	3年	2年	
3年4月1日時点の工場数	328	20	5	353
取下げた工場数	14	3	0	17
新規認定工場数	5	0	1	6
4年4月1日時点の工場数	320	17	5	342
構 成 比	93.6%	5.0%	1.4%	100%

＜有効期間別認定工場数の推移＞



イ. 定期検査、工場指導

新型コロナウイルス感染防止のため、緊急事態宣言の発令地域及び企業方針等で部外者の立入りを制限している場合、協議のうえ延期、あるいは、工場訪問を伴わないオンラインによる検査などの対応を実施。なお、3年9月末の緊急事態宣言解除により、立入制限をしている工場は一旦減少したが、その後の第6波により再度増加した。

3年度の定期検査実施計画は、年2回としたが、運用規定の改定により優良工場では希望により1回も可(45工場)とした。海外工場については2年度と同様、オンライン等による定期検査を実施した。

工場指導については2年及び3年工場を対象として、認定要領に定める規定の回数を実施した。また、微生物検査、官能検査及び拭取り検査の状況を確認、指導した。

＜3年度定期検査等の実施件数＞

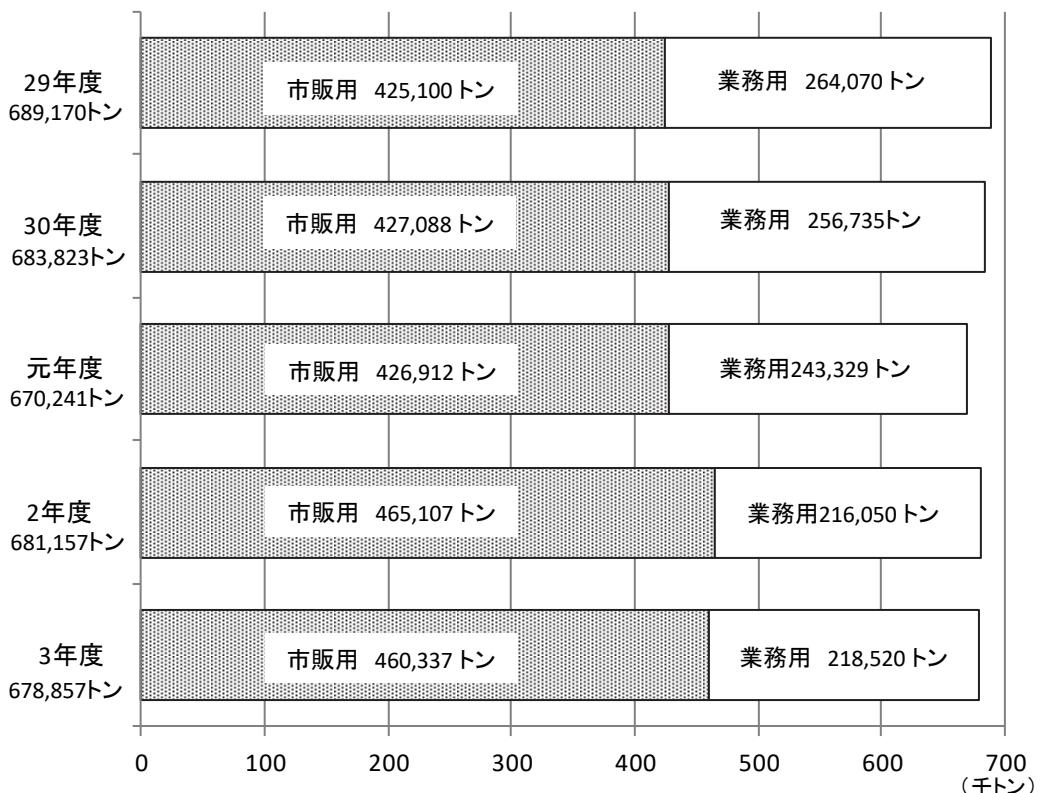
検査別	定期検査	製品検査	工場指導	特別指導
実施件数	653(95)	675	30	54

※()は、オンラインで実施した件数

ウ. 格付数量

3年度(4~3月)の格付け数量は、679千トン(前年比99.7%)であった。そのうち、市販品は、460千トン(同99.0%)、業務用は219千トン(同101.1%)であった。

＜認定工場格付数量の推移＞



エ. 認定工場の年間格付数量の確認と対応

年間格付数量の基準である60トンに達しなかったのは、3年度では48工場と前年度より減少した。これらの工場のうち、7工場が認定を取り下げた。

オ. 講習会

3年度は、2年度に中止した講習会の一部を開催する予定であったが、度重なる緊急事態宣言の発出等により、現地開催は全て中止した。代わりにオンラインで「HACCP衛生管理計画作成講習会」を3月に試験的に開催した。

防虫防鼠講習会については、前半、後半パート共に、3年度の開催は取り止めた。

(2)「複合型冷凍食品製造業」営業許可取得推進

認定工場は、「HACCPに基づく衛生管理」に対応できていることから、「複合型冷凍食品製造業」(以下、複合型)の取得条件を満たしている。また、複数の営業許可を統合できるメリットがあり、複合型の許可取得を推奨した。

3年6月以降、認定工場に複合型の営業許可取得の意向及び許可更新の際の問題などを確認し、希望があれば複合型許可の取得支援を実施した。

【複合型取得意向確認結果及び更新状況】(海外工場を除く 3月31日時点)

予定あり	予定なし	未定	更新済 ^{*1}	合計
105	48	130	46	329 工場 ^{*2}
31%	15%	39%	14%	

* 1: 更新済の内訳: 複合型 30、冷凍食品製造業 7、他 9。

* 2: 退会・認定取下げ予定のある工場を除く。

(3)認定工場への情報提供

3年度から、認定工場への情報提供として、以下のメールマガジンを発信した。

- ・第1回(6月2日)『6月1日施行の改正食品衛生法の内容について』

- ① HACCPに沿った衛生管理の制度化
- ② 営業許可の見直し及び営業届出制度の創設
- ③ 食品リコール情報の報告制度の創設

- ・第2回(9月9日)『営業許可対応』

- ① 複合型冷凍食品製造業取得に関するアンケート結果
- ② 営業許可を更新した認定工場からの情報
- ③ 許可更新に関する情報提供のお願い

(4)会員非認定工場に対する支援

2年度当初より、新型コロナウイルス感染拡大により、支援を中止していたが、3年5月より再開し、3年度は、2件実施した。

- ① 「HACCP衛生管理計画作成」支援は、2年度までに5工場の支援を実施。3年度は、6月に1工場の支援が終了し 延べ6工場が完了。
- ② 「品質保証体制の構築」支援は、2年度までに3工場の支援を実施。3年度は、6月に1工場の支援が終了し、延べ4工場が完了。うち、1工場を8月に認定工場として認定した。新たに、1工場の支援を11月より開始し、支援終了後に、認定申請を予定。

(5)非会員への対応

3年度は、品質・技術講習会を開催できなかつたため、非会員企業への講習会の案内ができず、協会加入の誘導活動は実施できなかつた。

(6) 冷凍食品の技術的課題の検討

東京海洋大学との共同研究として、冷凍保存時における、冷凍ほうれん草やグリンピースのビタミンC及び冷凍にんじんのカロテン等の残存程度について検討しデータのとりまとめ及び考察を行った。

(7) 品質・安全問題への対応

ア. 調理冷凍食品品質表示基準

旧 JAS 法から移行された「調理冷凍食品品質表示基準」については、廃止する方向で対応してきたが、コロナ禍もあり、消費者庁との調整が進展しなかった。

イ. HACCP支援法に基づく高度化基盤整備計画認定

当協会は、冷凍食品のHACCP導入のための高度化計画及びその前段階である衛生・品質管理の基盤整備計画の認定機関であるが、3 年度は、高度化計画及び高度化基盤整備計画の申請がなかった。

ウ. 流通事業者の温度管理徹底

冷凍食品にとって夏場の温度管理は重要な課題であるため、6～9 月を温度管理強化月間と定めている。引き続き、小売事業者等に対しその啓発活動を行い、3 年度は、流通関係7団体等を経由し、リーフレット 7 千部を配布した。

3. 統計調査事業

(1) 統計

ア. 冷凍食品の国内生産調査及び生産・消費に関する統計

令和2年(1~12月)冷凍食品の国内生産調査による結果と、財務省貿易統計から抽出した冷凍野菜輸入量及び下記イの調理冷凍食品輸入調査の結果をとりまとめて、4月に統計速報を公表した。

5月には、「2年(1~12月)日本の冷凍食品生産・消費に関する統計」を作成し、会員、官庁、関係団体、教育機関等に配布した。

また、4年年初から3年(1~12月)冷凍食品の国内生産調査を実施し、前年同様の項目について4年4月に統計速報を公表。

イ. 調理冷凍食品輸入調査

調理冷凍食品の輸入量は、財務省貿易統計から抽出することが困難であるため、会員のうち調理冷凍食品を輸入している企業を対象に毎年調査を実施している。

2年度は、回答のあった39社による2年(1~12月)調理冷凍食品輸入調査の結果について、アの統計とともに公表した。

また、3年(1~12月)については、アと同様に調査を実施し、4年4月に公表。

ウ. 冷凍食品に関連する諸統計

アの統計に、関係官庁等で発表する「冷凍」に関連する各種統計と諸外国の冷凍食品統計を加え、10月に「令和2年冷凍食品に関連する諸統計」を作成し、関係者に配布した。

エ. 英語版統計

上記アの統計の英語版として、「JAPANESE FROZEN FOOD STATISTICS」を作成し、4月に当協会のホームページに掲載した。

オ. 自然解凍調理冷凍食品の市場規模調査

会員のうち、自然解凍調理冷凍食品を取り扱っているメーカー65社を対象に、自然解凍調理冷凍食品の生産・輸入について、調査(元年、2年実績)を実施し、アの統計とともに公表した。

(2) 調査

ア. 学校給食市場における冷凍食品の市場実態及びコロナ禍の影響調査

学校給食市場における冷凍食品の利用状況を把握するとともに、コロナ禍の影響について

て調査し、127 の市・町教育委員会から回答を得た。4 年 3 月に調査結果を会員等に配布した。

イ. 食肉加工品等流通調査

一般社団法人日本食肉協議会の依頼により、冷凍食品で使用された食肉原料の種類、量などについて、会員 80 社を対象に 12 月に調査し、62 社から回答があった。調査結果は 4 年 2 月に同協議会に報告した。

ウ. 行政からの依頼調査

農林水産省等から多くの依頼調査があったが、そのうち主なものは次の通り。

① 「緊急災害時対応食料調達可能量等調査」

農林水産省からの依頼により、災害時の食料調達量(工場別、商品別)を調査し、4 年 1 月に同省に報告した。全会員を調査対象として 206 工場から回答。

② 「企業行動規範等策定状況調査」

9 月、農林水産省からの依頼により、「企業行動規範」のアンケート調査を全会員を対象に実施。

③ 「冷凍食品工場における冷媒調査」

冷凍食品工場の冷媒利用の現状(製造用凍結機、工場付設冷蔵冷凍倉庫)と省エネ型自然冷媒機器導入の投資予定額を調査し、4 年 3 月に農林水産省及び環境省に報告した。全メーカー会員を調査対象として 233 社 315 工場から回答。

4. 環境対策事業

(1) 環境自主行動計画の推進

平成 27 年 3 月に策定した「冷凍食品業界における第二次環境自主行動計画」においては、長期的にエネルギー消費原単位の削減、自然冷媒への転換などの目標を設定しているが、同計画に基づく 2 年のフォローアップ調査を実施し、11 月に公表した。

2 年の冷凍食品産業のエネルギー消費原単位は前年比▲1.4%と、同計画の前年比 1% 程度削減するよう努めるという目標を達成した。

(2) 容器包装3R の推進

平成 29 年 3 月に策定した「冷凍食品業界における容器包装 3R 推進のための第三次自主行動計画」では、プラスチック容器包装使用量(原単位)を基準年(2004 年度)に比べ目標年(2020 年)までに 22% 削減する目標を設定した。

同計画に基づく、2 年度のフォローアップ調査を実施し、9 月に公表した。2 年の家庭用冷凍食品容器包装のプラスチック使用量原単位は、前年対比 1.3 ポイント減少し、基準年比では 28.5% 減少と、目標である 22% 減少を 6.5 ポイント上回った。これは、パッケージフィルムの軽量化、フィルムの簡略化、トレーの削減や薄肉化、ピッチ幅の短縮化などによる冷凍食品メーカーのプラスチック使用量の削減努力のほか、小分け資材を多く使用する弁当商材の減少等が要因と考えられる。

(3)「脱フロン・低炭素社会の早期実現のための省エネ型自然冷媒機器導入促進加速化事業」

平成 30 年度から始まった環境省「脱フロン・低炭素社会の早期実現のための省エネ型自然冷媒機器導入促進加速化事業」(平成 30~令和 4 年度)では、冷凍冷蔵倉庫、食品製造工場及び小売業が補助対象となっている。3 年度予算では 73 億円が計上され、多くの会員企業がこの補助制度を活用した。

4 年度予算要求についても、農林水産省及び環境省への要請を行い、4 年度予算では 73 億円(前年同)が計上された。

5. 会員関係事業

(1)情報の提供

ア. 会報誌の発行

冷凍食品に限らず食品及びその周辺も含めた幅広い情報を提供するため、その内容を見直しつつ、月刊誌「冷凍食品情報」を会員、官庁、関係団体、メディア等に毎月約 1,400 部配布した。

イ. WEB の活用

ホームページ、E メールにより、会員に対して、その緊急性などに応じて、適宜、情報提供を行った。なお、3 年度は、前年度からの新型コロナウイルス感染拡大もあり、関係省庁からの多数の周知依頼があり、ホームページで周知した件数は、95 件(2 年度 97 件)となった。

また、E メールを使った個別会員への直接連絡・情報提供は関係省庁からの調査依頼が 3 件、協会からの連絡が 7 件あった。

(2)地区別会員協議会

(一財)日本食品検査との共催により、3 地区ブロック(東北、九州・山口、近畿・中国・四国)で会員協議会を開催する予定であったが、オミクロン株の拡大のため、中止とした。なお、上記 3 ブロックの会員企業には、当協会の事業報告、認定制度の運用状況などをまとめた資料を 4 年 3 月に送付した。

(3) 流通会員社懇談会

3 年度は開催なし。

(4) 会員の加入促進

4 年 2 月、28 社に対し、当協会の事業紹介、入会メリット等を内容とした加入案内のダイレクトメールを送付した。

6. その他(新たな外国人材受入れ制度への対応)

当協会では、飲食料品製造業及び外食業の特定技能制度に係る技能評価試験の実施・運営に当たる「外国人食品産業技能評価機構」(元年 1 月設立)の理事として参画し、会員に対して、適宜、情報提供を行った。

7. 総会・理事会

(1) 令和 3 年度通常総会

5 月 19 日(水) ロイヤルパークホテル(東京都中央区日本橋)

※コロナ禍での開催のため、懇親会は取り止め、可能な限り委任状出席を要請。

議題(議案)

第1号議案 令和 2 年度事業報告及び収支決算、監査報告

第2号議案 役員の選任

(報告事項)

1 令和 3 年度事業計画

2 令和 3 年度収支予算

3 令和 2 年度会員の異動状況

(2) 理事会

ア. 5 月理事会

5 月 19 日(水) ロイヤルパークホテル(東京都中央区日本橋)

議題(議案)

第1号議案 新規加入会員の承認に関する件

第2号議案 総会に付議すべき議題に関する件

(報告事項)

1 3 年 11 月理事会について

2 その他

イ. 11 月理事会

11月5日(金) 湯本富士屋ホテル(神奈川県足柄下郡箱根町)

議題(議案)

第1号議案 新規加入会員の承認に関する件

(報告事項)

1 中間事業報告

(1)広報事業、(2)品質・技術事業、(3)総務企画関係事業

2 その他

ウ. 3月理事会

3月24日(木) ロイヤルパークホテル(東京都中央区日本橋)

議題(議案)

第1号議案 新規加入会員の承認に関する件

第2号議案 令和4年度事業計画(案)及び収支予算(案)の承認に関する件

第3号議案 規程の改定に関する件

第4号議案 令和4年度通常総会の招集に関する件

(報告事項)

1 令和3年度事業報告(案)及び収支決算見込み

2 その他

8. 委員会・部会・研究会

(1)運営委員会

委員長 松島 和浩(日本水産)

副委員長 松田 要輔(テーブルマーク)

第1回 11月19日(金)

議題 ○令和3年度広報事業の中間報告

○令和4年度広報事業の基本方針について

○報告事項(令和3年度品質・技術事業、総務企画その他事業中間報告)

第2回 3月14日(月)オンライン開催

議題 ○令和3年度広報事業実施報告

○令和4年度広報事業の基本方針(案)

○報告事項(令和3年度品質・技術事業、総務企画その他事業報告)

(2)品質・技術部会

部会長 中井 清典(日本水産)

副部会長 渡邊 徳彦(テーブルマーク)

第1回 5月12日(水)オンライン開催

- 議題 ○令和2年度品質・技術事業報告
- 令和3年度認定制度運用状況
- 惣菜中のアクリルアミド調査依頼 等

第2回 11月4日(木)オンライン開催

- 議題 ○令和3年度上半期報告
- 海外工場の更新調査・定期検査方法
- 賞味期限の年月表示対応 等

第3回 1月18日(火)オンライン開催

- 議題 ○冷凍食品認定制度運営状況報告
- 会員非認定工場支援状況報告
- 賞味期限年月表示及び賞味期限延長 等

第4回 3月15日(火)オンライン開催

- 議題 ○令和4年度事業計画
- 冷凍食品認定制度運営状況報告
- 会員非認定工場支援状況報告
- eコマースにおける温度管理 等

(3)広報部会

部会長 大竹 泰(ニチレイフーズ)

第1回 3月4日(金)オンライン開催

- 議題 ○令和3年度広報事業報告
- コロナ禍における各社の広報対応について(意見交換)

(4)PR部会(開催なし)

(5)環境部会(開催なし)

部会長 府川 雄三(テーブルマーク)

環境省「2050 年 CN・フロン法 5 年後点検 WG」がオンライン開催され、部会長が委員として参加。(第 1 回 7 月 29 日、第 2 回 9 月 27 日)

(6)CS(顧客満足)研究会

座長 伊藤 聰(味の素)

副座長 赤尾 正和(マルハニチロ)

第 1 回 6 月 30 日(水)オンライン開催

議題 ○コロナ禍におけるお客様相談機能体制の各社取組み状況について 等

第 2 回 10 月 20 日(水)オンライン開催

議題 ○新たなお客様の情報収集ツールの導入取組状況(チャットボット、AI等)について 等

第 3 回 12 月 15 日(水)オンライン開催

議題 ○コロナ禍ビフォー・アフターにおけるお客様の声の変化についての有無等

第 4 回 3 月 16 日 オンライン開催

議題 ○客相の自社内における影響力・発信力を高めるための具体的方法(事例紹介)

○夏場の温度管理リーフレットの刷新の検討 等

(7)DFF(冷凍食品物流)研究会

座長 田村 信吾(日本水産)

副座長 鎌田 司(日東ベスト)

第 1 回 6 月 23 日(水)オンライン開催

議題 ○パレット化の進捗について 等

第 2 回 10 月 22 日(金)オンライン開催

議題 ○付帯作業、待機時間について 等

(8)RFF(市販冷凍食品)研究会

座長 熊谷 賢一(日本水産)

第1回 6月22日(火)オンライン開催

議題 ○令和2年度 食品産業における取引慣行の実態調査報告 等